研究部だより No.9

令和4年１０月発行

研究主題
新しい時代で学び続ける児童生徒を育てる
～「生涯学習力」を高める授業づくりを通して～

9月21日に行われた、「高等部授業研究会（事前研）」の話題についてお伝えします。

全校授業研究会　高等部

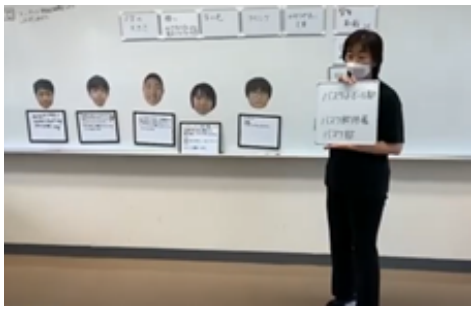
Dスタディ月グループ　「お悩み解決！～運動部からのSOS～」

【授業の概要】
「もっとバスケットが上手になりたい！」「もっとサッカーが上手になりたい！」「でもどうしたらよいか分からない！」という運動部の悩み解決に向け、プロスポーツチームに指導を依頼することを思い付いた月グループの生徒たち。運動部の抱える悩みを具体的に聞き取るため、どのようなことができるようになりたいのかを運動部にインタビューし、その内容をプロスポーツチームの指導者に伝えるために動画を制作することにした。提示授業では、「伝える」というところに視点をおき、みんなで動画を見る相手を意識しながら字幕編集を行った。

〈単元目標〉
・動画制作を通して、相手に伝わりやすい表現方法を知る。
・自分の考えを伝えたり、友達の意見を聞いたりしながら話合い活動をする。
・互いのよさを生かしながらお悩み解決に取り組んだり、伝えることの喜びを知ったりする。

〈授業者のしかけ〉
個別思考の場を設け、一人一人が自分の意見をミニホワイトボードに記入した後、全員の意見を教室のホワイトボードに貼り付け、全体で互いの意見を共有し、他者の意見と自分の意見を比較できるようにした。

【生徒の様子】
・それぞれの意見が書かれているボード(右写真)が並べられていることから、全員の意見が比べやすく、同じ意見をまとめたり、同じ意見と違う意見を整理したりすることが容易にできていた。
・自分の意見と他の人の意見を比べて、なぜ自分の意見の方がよいと思ったのか、もしくは他の人の意見の方がよいと思ったのか、理由を付けて話すことができていた。



〈授業者のしかけ〉
生徒から出た意見をT２が即座に映像に反映することで、動画を見る人の視点からどの意見が一番よかったかを考え、みんなで協議する場を設けた。

【生徒の様子】
・生徒が自分の意見を主張するときに、映像で受けた印象を根拠にして「このほうが分かりやすい」「ぱっと見て何が伝えたいか分かる」などの理由を付けて話していた。
・実際に映像を見ることで、相手を意識し、見えやすさや分かりやすさについて考えて意見を述べる姿が多く見られた。
・友達に自分の考えが伝わるように意見を述べたり、他者と違う意見を話すときは「個人的な考えだけど…」などと友達に配慮して自分の考えを伝えていた。

研究会　協議で話題になったこと

今回の授業研究会は、11月に行われる教大協の授業研究会の事前として行いました。11月は、ハイブリット型での授業研究会を予定しています。そのため、jam boardというアプリを試行し、電子付箋を用いて進めました。

「伝える力」をテーマに、
各学部から生涯学習力の視点でたくさんの意見が出ました。

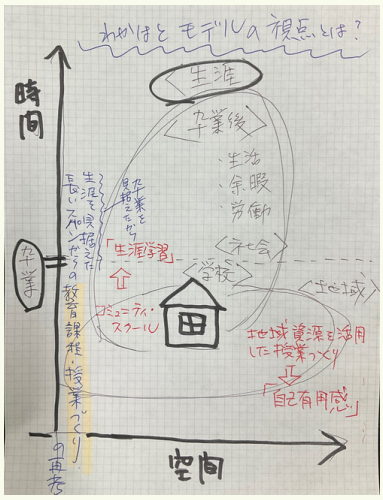
研究協力者の先生から

〈秋田大学教育文化学部准教授　前原和明先生〉

・卒業後の生涯学習力の向上に向けてDスタの考え方は有効である。
・人生を楽しむための力が得られる。
・生徒一人一人の言葉を捕まえて枠付けする。つぶやきが言語化されている。
・理由付けをしながら自分の意見を主張。他者の意見を吟味し、目的に基付いて決定していく。
・社会に近い環境で他者とのコミュニケーションを図る。
・コーピング(対処法)ではなくサバイバルスキル(問題解決)として他者と関わる。

〈秋田大学大学院教授　武田篤先生〉

・これまでは学校の中だけを見据えていたが、わかはとモデルの視点で授業を再考していることを示していく。
・教大協に向けて、附属のこれまでの取組が他校からの参加者に伝わるようにするには、生涯学習という視点をもったことで何が変わったのか、以前との違いを先生方一人一人が伝えられるようにすることが大切。
・学校という枠組みだけでなく、地域資源を活用する。地域の役に立つ体験などで、自分たちの教育が全てではないことも知っていくことで、先生方自身がもっと楽になれる。



武田先生が描いてくださった
生涯学習の視点からの時間と空間の図

〈中央教育事務所由利出張所指導主事　髙橋基裕先生〉

・生涯学習力を高める視点で授業を組み立てたということが伝わるように指導案が書かれている。
・伝えるためには、その内容を子ども自身が分かっていることが必要。大人(教師)が伝わっているのかどうか見極められようにすること、子どもの見取りがキーになってくる。
・できることでできないことをカバーする方法もある。子どもの人と関わるスタイルに応じて、伝えることを補う方法を知ることも大切。子どもたちの得意な伝え方は何か。
・色々な意見から、１つに決めていくための基準があればよかった。
・生徒同士で決められる場面があればよい。
・実社会では色々な意見がある。決まった意見が全てではないことを知る機会も必要である。

next→ 公開研究協議会　事前研（小学部）の様子をお伝えします。